



この他にもたくさんあります！
貸出中の本には予約ができます



新刊紹介

『文系研究者になる』	石黒圭／著	研究社
『公共図書館を育てる』	永田治樹／著	青弓社
『土偶を読む』	竹倉史人／著	晶文社
『古代ローマ饗宴と格差の作法』	祝田秀全／監修	G. B.
『宇宙人と出会う前に読む本』	高水裕一／著	講談社
『図書館司書 30 人が選んだ猫の本棚』	高野一枝／編著	郵研社
『観る将のための将棋ガイド』	山口絵美菜／著	法研
『世にも美しい三字熟語』	西角けい子／著	ダイヤモンド社
『秋のカテドラル』	遠藤周作初期短篇集 遠藤周作／著	河出書房新社
『吾妻おもかげ』	浮世絵師・菱川師宣の生涯 梶よう子／著	KADOKAWA
『黄金の刻』	「セイコー」創業者の一代記 楡周平／著	集英社
『円』	中国SF短篇集 劉慈欣／著	早川書房



図書館カレンダー (1月)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



今月の展示

小説

時代小説

実用書

冬のあみもの

お参り入門

食卓から元気をつくる



館員おすすめの一冊

『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』 福井県立図書館／編著 講談社

まず、この本のタイトル「100万回死んだねこ」と聞いて、“？”ハテナマークが頭にうかぶと思います。図書館に勤める私自身、言い違いやウロ覚えは日常茶飯事です。図書館の業務はカウンターで本の貸出や返却の処理を思い浮かべるとは思いますが、大きな役割のひとつに「レファレンス」があります。「レファレンス」とは、利用者が探している“情報”にたどりつけるように図書館員がお手伝いをすることです。

この本は、福井県立図書館の職員が「どんな相談があって、どのように対応したか」を真面目に共有すべく記録をしていたものを、私たちだけで独占していたらもったいない！読んで笑ってもらって、図書館をもっと身近に感じてほしいという気持ちでまとめられています。

もくじに、「おいしい！」「それはタイヘン！」「ん！」などとレファレンスの内容によって分類されていて、ひとつひとつにコメントがありクスッと笑えます。

本の最後に、「図書館は年齢も性別も関係なく誰が訪れてもいい場所です。」とあります。気軽に図書館員にお探しの本をお尋ねください。やりとりをしながら見つけ出す楽しさを味わっていただけるとうれしいです。(S)



西館日和



～あけましておめでとうございます～

「一年の計は元旦にあり」ということわざがあります。

みなさんはどのようなお正月を迎えられましたか。初詣、初稽古、初売りに出向いた方、まだ用心して外出を控えた方、離れて暮らす家族と久しぶりに会えた方など、思い思いのお正月を迎えられたことでしょう。

元日はお天気に恵まれ、私は普賢岳から輝き昇る初日の出を拝むことができました。無病息災とともに先が見通せる一年でありますようにと、おせち料理のれんこんにも願いながらいただきました。

引き続き、感染対策を行いながらとなりますが、今年こそ、みなさんがそれぞれに計画した事を実行でき、思いや願いを叶え実現できる笑顔いっぱいの良い年になることを祈っております。

西諫早図書館は、これからも地域のみなさんに役立つ情報や資料を提供し、気軽にお立ち寄り頂ける場所でありたいと思っております。本年もよろしくお願いいたします。 分館長 野下